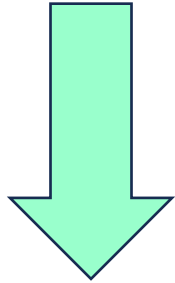


静岡県大教職専門「総合」受講者に学ぶ 探究活動の可能性の豊かさ

—生活科・総合の原点が問う公教育（公立学校）再構築の道筋（1）—



米津 英郎
静岡県富士宮市立大富士小学校校長
静岡県立大学非常勤講師

現代的課題の探求活動の適否と可否は 社会事象の多様性、多元性、可変性への注視度に

—生活科・総合の原点が問う公教育（公立学校）再構築の道筋（2）—

馬居政幸
静岡大学(名)
前静岡県立大学非常勤講師

1-1発表目的（米津の発表をふまえて）

総合の課題は「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」との小中高学習指導要領共通記述に集約される。

とすれば “総合的学習・探求時間” の単元構成の適否と可否は、現代社会の三種の特性（多様性、多元性、可変性）への理解度と表現力で評価可能、との仮説の下、静岡県立大学（教職専門：総合的学習・探求教育法）受講生との協働による実証活動に挑んだ。

その探求成果（チーム別発表PPT）と活動記録（LINE履歴）への生活科・総合的学習参与観察と社会問題（超少子高齢・人口減少）調査で得た知見による分析結果の報告が本発表の目的である。

1-2. 発表概要

そのために、協働研究者の米津英郎の実践発表の土台を構成する生活科と総合に共通する理念と実践方法を解き起こし、学習から探求へと進むための“総合的学習・探求時間”に内在する論理とその開示となる実践方法と評価基準の特異性の提起を試みる。

その際に、全ての理と論と実の解の淵源を、学生+米津+馬居のLINE履歴に記された生の言葉（**口語表現・Word A4判46文字×40行⇒約100頁80293文字**）と3チームに分かれて作成した活動記録（**各チーム100枚以上の発表PPT：テーマは現代的課題の典型**）に求める。

それは、米津と馬居の発表の内容と方法自体が、生活科・総合の原点開示の試みであると同時に、**一人一台PCと生成AIを駆使する公立学校が担うべき課題提起への転移を志向する下記4種の“自己省察の軸（視座）”に基づく試行錯誤の歩み**であることを意味する。

4種の“自己省察の軸（視座）”

軸1：「生活科」と「総合的学習・探求の時間」を貫く原則は米津発表で示したように、学習と活動の進行状況に応じた“教師・教科書・教室・時間割”の改編と改変の日常化。

軸2：「現代的課題」と総称される社会事象を三種の座標軸（多様・多元・可変）の組合せで問う必要性を実証的に理解（検索・論議）する調査探求テーマのチーム別構築活動。

軸3：総合的な学習（共有化）から探求（個人化）へと進行する学習目標の変化に応じる学習活動の内容と方法を再構築するチーム別活動の過程において、“情”と“意”と一体化した“知”の生成の契機（最先端分野で活躍する特別講師招聘）の準備➡一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化（アクティブラーニング）を経験的に内在化する機会の構築。

軸4：上記軸3種の過程と成果をPowerPointに描き、チーム間でのプレゼンテーションと相互評価を繰り返し、チーム別調査探求成果の共有化➡個別化➡個人化（相互主観化）へと深化する現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することに挑む試行錯誤。

軸1「生活科」と「総合的学習・探求の時間」を貫く原則は学習と活動の進行状況に応じた“教師・教科書・教室・時間割”の改編と改変の日常化。

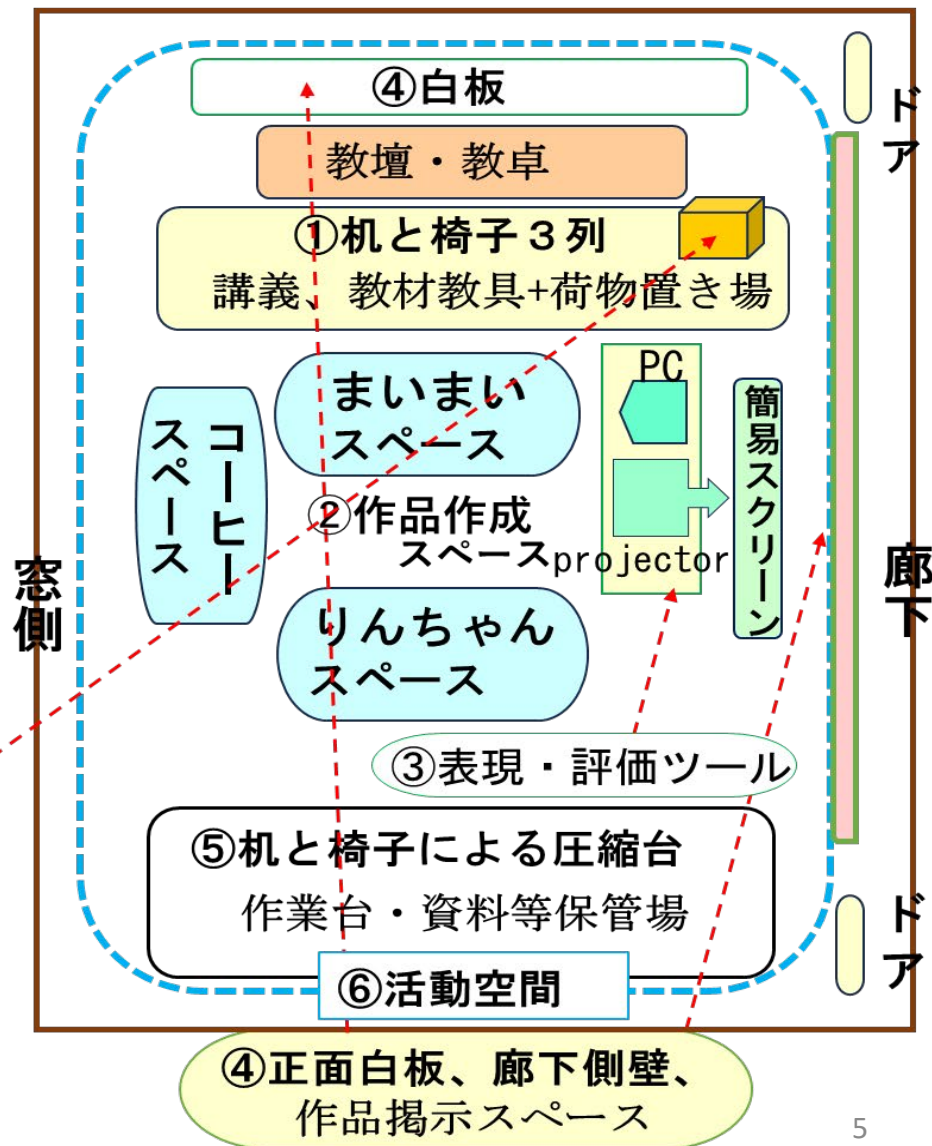
資料1-1 定員130名の教室



資料1-3 活動用の教材・教具
(思考・表現ツール)



資料1-2 教室改編プラン



A photograph of a table with various items. At the top, there are two boxes of tissues. Below them is a box of 'The Pocket' tissues. In the center, there are three blue staplers and a black pen. Below the staplers are three boxes of 'Masu' tissues. At the bottom, there is a box of 'Masu' tissues with a green and white design.

資料1-3
活動用の教材・教具
(思考・表現ツール)

活動用の思考・表現ツール

- ・ LOUKIN ホワイトボード用クリーナー
スプレー 500ml×1本
- ・ コクヨ ホワイトボード用イレーザー
- ・ ゼブラ 紙用マッキー太字／
細字8色セット×6組
- ・ ゼブラ 紙用マッキー極細8色×9組
- ・ アスクル ふせん 75×75mm
パステルカラー 4色セット30冊
- ・ アスクル 強粘着ふせん
50mm×50mm 50冊
- ・ マルアイ 方眼模造紙
プルタイプ(20枚入り)×3
- ・ アスクル 養生テープ 白
幅50mm×25m×3
- ・ M D F クリップボードA3ヨコ
コーティングあり×4
- ・ コクヨ はさみ テピタ×4
- ・ ニチバン セロテープ
大巻ハンドカッター ×4

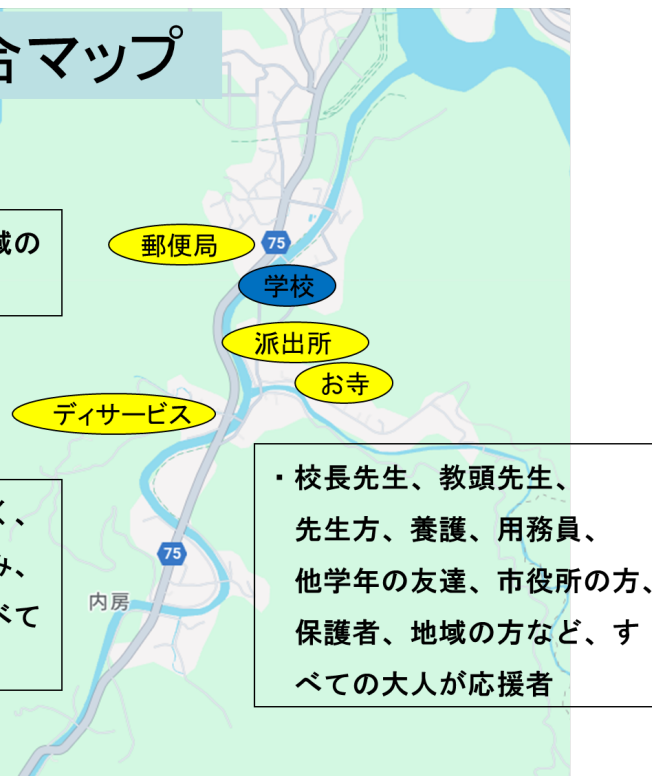
◇ 環境整備は無限大に広がる ◇



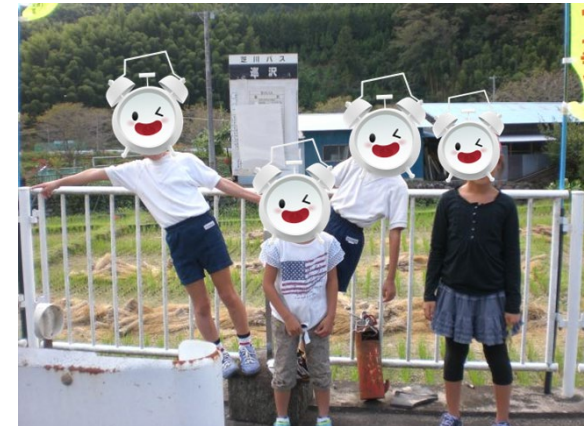
生活科・総合マップ

・教科書や教室は、地域の
ひと・もの・こと

・総合の時間だけでなく、
朝の会、給食、昼休み、
放課後、休日等、すべて
が活動時間



・校長先生、教頭先生、
先生方、養護、用務員、
他学年の友達、市役所の方、
保護者、地域の方など、す
べての大人が応援者



- ・児童数 46人
- ・1年生 11人
- ・2、3年生 11人
(複式：2年生7人・3年生4人)
- ・4年生 9人
- ・5、6年生 15人
(複式：5年生7人・6年生8人)

➡ 受講生との協働による実証活動 ➡ テーマは現代的課題の典型
➡ チーム個々の活動（調査探求）による報告書3種

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%98%86%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%8A%E3%82%93%E3%81%A1%E3%82%83%E3%82%93%E3%82%9F%BCE9%A3%9F%E8%82%B2%E3%81%A8%E9%98%B2%E7%81%BD.pdf>



<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E8%91%9B%E5%B1%B1%E3%81%95%E3%82%934.08%E5%BC%9A%E3%81%A8%E4%BA%BA%E9%96%93%E3%81%A5%E5%9C%A8%E3%82%8A%E6%96%B9.pdf>



<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%98%86%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%92%E3%83%BC%E3%83%9A%E7%94%B7%E5%A5%B3%E3%81%A8%E3%82%82%E3%81%AB%E5%B9%B8%E3%81%9B%E3%81%AB%E7%94%9F%E3%81%8D%E3%82%8B.pdf>



食育と防災

チーム りんちゃん

O, K,
S, F

男女ともに幸せに生きる ために

～身近になった社会の問題や取り組みについて考える～



*黄色枠で囲っている部分は著者

グレー枠で囲っている部分は著者

が記述しています

オレンジ枠部分は米津先生に学んで作成した部分です。

AIと人間の在り方

チームまいまい Y.K., A.I., K.T., S.F.

目次

- 0. はじめに
 - 1) 総合的な学習の時間の意義
 - 2) 食育を行う意義
 - 3) なぜ防災と食育に注目したか
 - 4) 防災と食育を結び付ける意義
- 1. 背景と目的
 - 1) 食育と防災に至った経緯
 - 2) 特別講義
 - ◆ 導入
 - (1) 栄養教諭 H 先生
 - (2) 一級建築士 高田好浩 先生
 - ◆ まとめ

5
6
7
8
8
9
10
22
22
23
44
59

(O)

目次

- 2. 調査
 - ◆ 導入
 - 1) 都市別の防災のあり方の違いを調査する
 - 2) 令和 6 年能登半島地震の調査
 - 3) 防災における備蓄の現状と理想
 - ◆ まとめ

60
61
62
89
102
131

(O)

目次

- 3. 授業計画
 - ◆ 指導案の提示
- 4. 栄養教育の理想を求めて
 - 1) 栄養教諭の必要性について
 - 2) 栄養教諭にできること
 - 3) 栄養教諭の今後の課題
- 5. 終わりに
 - ◆ 講義を終えての感想

132
134
152
153
155
156
161
162

(O)

目次

- 表紙 p01
- 目次 p02
- 1. なぜ今ジェンダーを考えるのか p03
- 2. 探究までの活動について p07
 - 1) 探究までの過程
 - 2) 特別講義を聞いて
 - (1) 佐藤さやかさん
 - (2) 佐野優子さん
- 3. 探究活動 p34
 - 1) 探究活動1 googleフォームでのアンケート結果について
 - 2) アンケート結果
 - 3) アンケート結果をもとにした探究
 - (1) 生きづらさについて
 - (2) 家事、出産、育児について
 - 4) 探究活動2 より深い考察へ
 - (1) 女性の進学について
 - (2) 女性の結婚について
 - (3) 服装や化粧について
- 4. 私たちの考えるジェンダーの未来 p106
- 5. 授業モデルの提示 p110



多様性
(化)

多元性
(化)

可変性
(化)

ヒト

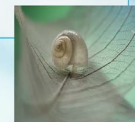
モノ

コト

はじめに

私たちは「AIと人間の在り方」をテーマに総合的な探究の時間の授業を作成した。この授業を通して、「私たちはどうすればAIと共存できるのか。」また「自分の興味関心」について考察し、明確化することが出来るであろう。

AIに対するプラスのイメージと、AIは道具である、ということを高校生に体感してもらうことが、この単元構成の狙いであり、私たちチームまいまいの想いである。



K.Y

目次

- 1. 背景 (私たちの総合への考え方とテーマ決定へのキーワード)
- 2. 特別講義: 専門家のお話 (高校理科教諭とAI専門家の講義)
- 3. 方向性決定
- 4. 私たちのAIに対する考え方(グループメンバー4人はAIをどう考えているか)
- 5. アンケート (高校生を対象にAIに対する実感をアンケートを用いて調査)
- 6. 調査結果の考察 (調査結果から授業構成決定に至るまで)
- 7. 総合的な探究の時間 (自己分析(自分の目的、やりたいこと、好きなこと)をする授業)
- 8. まとめ (半年間の活動を通して)

3

K.Y

チームりんちゃん「食育と防災」

1. 背景と目的

- 1) 食育と防災に至った経緯
- 2) 特別講義
 - ・栄養教諭
 - ・一級建築士

2. 調査

- 1) 都市別の防災のあり方の違い
- 2) 令和6年能登半島地震
- 3) 防災における備蓄の現状と理想

3. 授業計画 指導案の提示

4. 栄養教育の理想を求めて

- 1) 栄養教諭の必要性について
- 2) 栄養教諭にできること
- 3) 栄養教諭の今後の課題

5. 終わりに 講義を終えての感想

チームまいまい「AIと人間の在り方」

1. 背景(私たちの総合への考え方とテーマ決定へのキーワード)

2. 特別講義：専門家のお話（高校理科教諭とAI専門家の講義）

3. 方向性決定（2つの特別講義を元に私たちのテーマを決定）

4. 私たちのAIに対する考え方

（グループメンバー4人はAIをどう考えているか）

5. アンケート

（高校生を対象にAIに対する実態を、アンケートを用いて調査）

6. 調査結果の考察

（調査結果から授業構成決定に至るまで）

7. 総合的な探究の時間

（自己分析(自分の目的、やりたいこと、好きなこと)をする授業)

8. まとめ（半年間の活動を通して）

チームコーヒー 「男女ともに幸せに生きるために ～身近になった社会の問題や取り組みについて考える～」

1. なぜ今ジェンダーを考えるのか

2. 探究までの活動について

- 1) 探究までの過程
- 2) 特別講義を聞いて
 - ・佐藤さやかさん・佐野優子さん

3. 探究活動

- 1) 探究活動1 Googleフォームでのアンケート結果について
- 2) アンケート結果

3) アンケート結果をもとにした探求

- ・生きづらさについて
- ・家事、出産、育児について

4) 探究活動2 より深い考察へ

- ・女性の進学について
- ・女性の結婚について
- ・服装や化粧について

4. 私たちの考えるジェンダーの未来

5. 授業モデルの提示

6. 授業を振り返って

10月から、本格的に材料を集めてベンチを作ろうとしていたら……。

バス停が なくなった

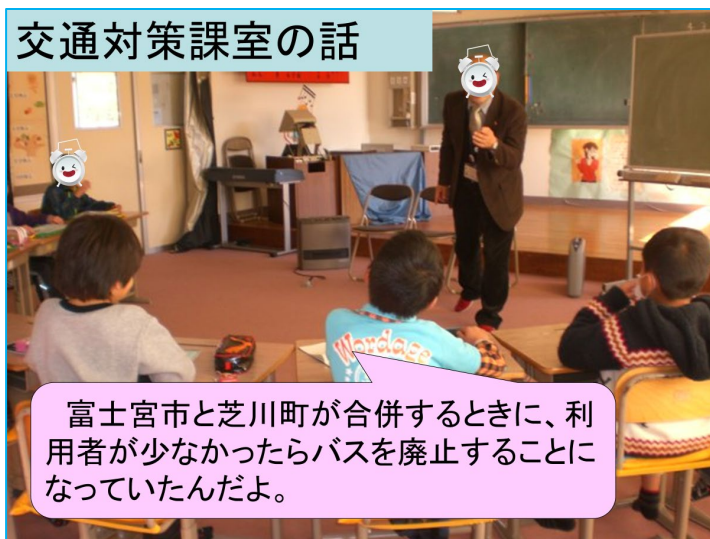
現代的課題直結

いろいろな人に聞いてみると



問題が生じる現場（ヒト、モノ、コト） ➡ 歩いて見出す事象の構造と解決の糸口

交通対策課室の話



タクシー乗車



軸3：総合的な学習（共有化）から探求（個人化）へと進行する学習目標の変化に応じる学習活動の内容と方法を再構築するチーム別活動の過程において、“情”と“意”と一体化した“知”の生成の契機（最先端分野で活躍する特別講師招聘）の準備➡一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化（アクティブラーニング）を経験的に内在化する機会の構築。

総合的な学習（共有化）から探求（個人化）へと進行する学習目標の変化に応じる学習活動の内容と方法を再構築するチーム別活動の過程

模造紙

時間配分

プレゼン

相互評価

PPT

調査・情報収集



LINE履歴+最先端と知と連結する言語化

➡チームメンバー間・チーム間相互認証



“情”と“意”と一体化した“知”の生成の契機



最先端分野で活躍する特別講師招聘

最先端分野で活躍する特別講師招聘

12月11日06:30 PM

12月21日08:30 PM

静岡県内公立小学校 栄養教諭（栄養教育の現状と課題）（米津：友人）

東京大学大学院学際情報学専攻 李在原（AIの理解と生存戦略）（馬居：親友家族）

☆チームまいまい：AIと人間の在り方

12月12日06:30 PM

12月18日06:30 PM

静岡県内公立高等学校 理科教諭（高校理科と総合的探求の実践）（米津：卒業生）

1級建築士・防災士（耐震診断補強相談士） 高田好浩（馬居：親友）

（防災食と避難施設での食の在り方の問題）

☆チームりんちゃん：食育と防災

12月28日01:00 PM

動物園飼育士 佐藤さやか（馬居・研究室卒業生）

（二児の母、夫は会社員 理系女性の就労、ジェンダーバイアス）

企業広報責任者 佐野優子（馬居・家族）

（三児の母 夫は会社員 企業社会のジェンダーバイアス）

☆チームcoffee：男女ともに幸せに生きる

～身近になった社会の問題や取り組みについて考える～

LINE履歴：3チーム10名+馬居・米津、チーム単位+馬居・米津
口語表現・Word A4判46文字×40行：総計約100頁以上80293文字の活動記録

◆LINE 3 チーム合同トーク履歴

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%97%86%E2%97%8623%E9%9D%99%E5%B2%A1%E7%9C%8C%E7%AB%8B%E5%A4%A7%E7%B7%8F%E5%90%88%E7%9A%84%E3%81%AA%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%83%BB%E6%8E%A2%E6%B1%82%E3%81%AE%E6%99%82%E9%96%93LINE%E3%83%88%E3%83%BC%E3%82%AF%E5%B1%A5%E6%AD%B4240711%E7%8F%BE%E5%9C%A8%E4%BF%AE%E6%AD%A3%E7%89%88.pdf>



◆「チームりんちゃん」トーク履歴

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%97%86%E3%80%8C%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%8A%E3%82%93%E3%81%A1%E3%82%83%E3%82%93%E3%80%8D.pdf>



◆「チームまいまい」トーク履歴

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%97%86%E3%80%8C%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%81%BE%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%84%E3%80%8D%E3%83%88%E3%83%BC%E3%82%AF%E5%B1%A5%E6%AD%B41.pdf>



◆「チームコーヒー」トーク履歴

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%97%86%E3%80%8C%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%92%E3%83%BC%E3%80%8D%E3%83%88%E3%83%BC%E3%82%AF%E5%B1%A5%E6%AD%B4241221%E4%BF%AE%E6%AD%A3.pdf>



LINE「総合的な学習」トーク履歴：Word転記のPDF版（公開用）

◆LINE 3 チーム合同トーク履歴

ください。第8章の1節で論じています。

20:16 馬居 この続きは明日に。

20:19 馬居 追申、テキストは、UER-Labo にストックしてあります。

20:19 馬居 <https://www.uer-labo.jp/room/ikiru/ikiru01/2022/02/07/3691> です。

2023.11.02 木曜日

17:58 馬居 11月2日講義メモ後半開始

17:59 馬居 11月4日第5回、第6回講義・活動のための準備メモを再開します。

はじめに確認になりますが、昨日提示した6種の図を理解するための基本テキストとして、昨日の LINE 末尾に、UER-Labo（馬居教育調査研究所）内にストックした下記テキストが開く URL を案内しました。

『人口減少時代の家族・学校・地域・社会へ生涯にわたる学びと教養の新たな可能性を求めて～』

（NSK 出版 2020 年）

18:01 馬居 そのため、ここでは、明後日 11 月 4 日とその次の 11 月 18 日の講義と活動で使用する「第 8 章 教室の中から未来創りに挑む」を構成する下記 3 種の章の PDF 版を添付します。

1. 新学習指導要領実践の課題と可能性
2. 社会事象の多様・多元・可変性と生きる場の学びの可能性を求めて
—社会に開かれた教育課程と 6 次産業社会の資質・能力—
3. 学校・家族・地域・社会を結ぶ学びと教養の再構築を
—カリキュラム・マネジメントの潜在力を拓く—

18:01 馬居 1. 新学習指導要領実践の課題と可能性.pdf

18:01 馬居 2. 社会事象の多様・多元・可変性と生きる場の学びの可能性を求めて.pdf

18:01 馬居 3. 学校・家族・地域・社会を結ぶ学びと教養の再構築を.pdf

18:07 馬居 「2」と「3」の副題はながくなるので省きましたが、内容的には重要なので覚えてください。できれば、それぞれ PDF をダウンロードし、PC のデスクトップに貼付けて、いつでも開くことができるようにしておいてください。

18:12 馬居 次に、モデル図作製の予備作業の資料として、8 章全体の構成を記載した 8 章扉頁の JPEG 版を貼り付けます。

18:12 馬居 画像

18:21 馬居 もう一つ、6 種の図を理解するサブテキストを紹介します。

18:22 馬居 補論 新学習指導要領が描く授業者の情景.pdf

18:25 馬居 公益財団法人 中央教育研究所による『高校教員の教育観とこれからの高校教育』研究報告 No.92 <https://chu-ken.jp/pdf/kanko92.pdf> に掲載された拙稿「第 7 章 教科からみる高校教育改革の課題」の補論です。

18:34 馬居 補論 PDF を開いてみてください。6 種の図について説明した 6 頁の文章です。2018 年発刊ですので、テキスト 8 章より前に執筆しました。そのためか・・・8 章 1 節よりもわかりやすいのでは、と思っていますが、眺めてみてください。

18:39 馬居 報告書の表題が示すように、高等学校の先生がたの教育意識を知るための全国調査です。興味がありましたら上記 URL を開いてみてください。報告書の全体が開きます。興味関心に応じて読んでみてください。

18:42 馬居 私が執筆した第 7 章の PDF 版のみ添付します。もし、時間に余裕があれば眺めてみてください。補論との関連で役立つ言葉があるかも、なので。（＾＾）

18:42 馬居 第 7 章 教科からみる高校教育改革の課題.pdf

◆「チームりんちゃん」トーク履歴

2023/12/26(火)

09:14 N.O がトークルーム名を「チームりんちゃん」に変更しました。

09:16 M.K が参加しました。

10:32 A.S が参加しました。

10:53 馬居が参加しました。

10:57 馬居 馬居政幸が参加しました。よろしくお願いします(よろしく)

11:22 米津が参加しました。

12:01 米津

本校の 5 年生が、防災用のダンボールベッドを作りました。乗っても壊れなかったので喜んでいたところ、大人は寝られるの？と担任に言われて思いっきり凹んでいました。数日は落ち込んでいましたが、誰の為にダンボールベッドを作るのか、どこに設置するのか、寝心地は？等、自分たちで対話をし、次の計画を立て直していました。子供たちは、あれっと思う事実が、付くと勝手に動き出します。高田さんの話の中にはそのためのヒントがたくさんありました。単元を構想するときには、まず子供の通常の思考の流れを考えます。次に、その中で、子供の思考をひっくり返すような事実を伝える仕掛けをします。非常食、栄養、女性、高齢化という観点には子供たちの思考をひっくり返す要素が十分含まれています。もう少し言えば、8 時間の単元なら、3 時間目ぐらいまでは現状を把握できるようにして、その後、インタビュー等で、意外な問題点に子供が気付くようにし、本気の課題が生まれるようにして、子供たちがアクティブに動き出すのを待つぐらいでいいでしょうか。探究活動に正解はありませんので、対話をしながらがんばってください。あと少しです。

2023/12/29(金)

19:29 馬居

馬居政幸さんがあなたをスケジュール済みの Zoom ミーティングに招待しています。

時刻：2024 年 1 月 11 日 02:30 PM 大阪、札幌、東京

参加 Zoom ミーティング

<https://us06web.zoom.us/j/83671129786?pwd=2N8ucE3lpmMDUAVT1VOKKJ34JAyxOA.1>

ミーティング ID: 836 7112 9786 パスコードを設定する: 455884

2024/01/03(水)

22:28 N.O 馬居先生、こんばんは。

1 月 6 日（土）の 17~19 時にメンバーのみで zoom ミーティングしたいのですが、セッティングしていただくことは可能でしょうか。

よろしくお願いいたします。”

22:35 馬居 了解です。大丈夫です。明日、セットして送ります。

22:36 N.O ありがとうございます。

22:46 馬居 令和 6 年能登半島地震のこと、しっかり情報収集をしてください。過疎の町の巨大地震によって何が起ころか。高齢者、移動手段なし、外からの援助困難、まず必要なのは水と食料。まさに備蓄の問題です。どのような食料を開発したら良いのか。情報収集のアンテナの感度を上げてください。

22:49 馬居 とはいっても準備していることがあると思います。とりあえず身近な情報ツールから

◆「チームまいまい」トーク履歴

2023. 12. 21 木曜日

A.I が参加しました。
22:34 Y.K が参加しました。
22:35 S.F が参加しました。
22:37 K.T が参加しました。

2023. 12. 22 金曜日

12:46 Y.K

メモ認知科学 情報処理という観点から生体に

考えること→労働？

コンピュータは文脈理解も出来なかった。(2年前とか)、人狼は文脈が大切
何故人工知能が騒がれているか。人間らしく、理性的、
これまでは統制された文脈で理性的な思考、行動だけ。
ヒューバートドレイファスは、人間の知識は説明できない。理解できるわけがない。AGIは絶対無理。
言語モデルとは、確率ののっとなって次の単語を予想。莫大。

創発能力（なぜ起こったのかわからない）

→人間みたいに発達しているのか、発達しているのか、も分からない。短期間にどんどん進化している。
人工知能が意思を持っているかは測定できないが現時点でもう、AIは人間を超えている

マルチモーダル

人工知能はロボットを通じて行動。医療分野でも人工知能を用いた診察。

人間の本质は変わらない

自分がやりたいことを明確化する（人工知能にやりたいことは無い）
そのやりたいことが今後継続的に存在するものであるかどうかを診断
AIは、目的を持つ人に機会がある。とにかくいい質問を作り上げることが重要。
職業がなくなるまえに、自分の目的は？目的さえあれば大丈夫。自分の興味、継続。
自分なりの課題を考える。

高校生→自己調整能力を身に作る事が大切。ルールをとらえる。
世の中はゲーム。攻略方法？限られたルールの中でどう勝つか。

◆「チームコーヒー」トーク履歴

2023. 12. 25 月曜日

20:18 馬居 馬居が参加しました。
20:18 馬居 スタンプ
20:21 馬居 28 日午後 1 時からの佐野優子さんとの懇談で話題にしたいことを書き込んでください。
20:45 A.S が参加しました。

2023. 12. 26 火曜日

07:41 米津が参加しました。
08:08 米津

佐藤さやかさんの話を伺った後、本校の保護者と話す機会がありました。その方は、清掃作業員をしています。社のルールで、女性に20キロ以上のものを運ぶように指示するとパワハラになるという張り紙があり、常に疑問を感じているそうです。ジェンダー、パワハラなど、様々な価値観がぶつかり、混乱しているのが今の社会です。このようなことについて、異性、異世代、異業種へのインタビューなどを踏まえて比較分類作業を行うようにすれば面白い単元が構成できるかもしれないと思いました。佐藤さやかさんのようにストレートに語ってくれる方は他にもいるはず。アクティブな単元構想を期待しています。がんばってください。

21:18 N.K 総合 12.26 現在 pptx

21:18 N.K 佐藤さやかさんとの話を踏まえてパワーポイントを加筆しました。確認をお願いします。

21:21 N.K

法律については今後加筆する予定です。また、佐藤さやかさんからのインタビューについても修正をする予定ですが、27日(明日)は一日アルバイトがあり修正が難しい為28日はこのパワーポイントをもとに今度の方向性について考えていただきたいです。28日に出た修正点などを踏まえたものについては年始に提出をします。

2023. 12. 28 木曜日

17:33 N.K

チームの会議？を10日午後5時からと言いましたが、6時からに変更できますでしょうか？

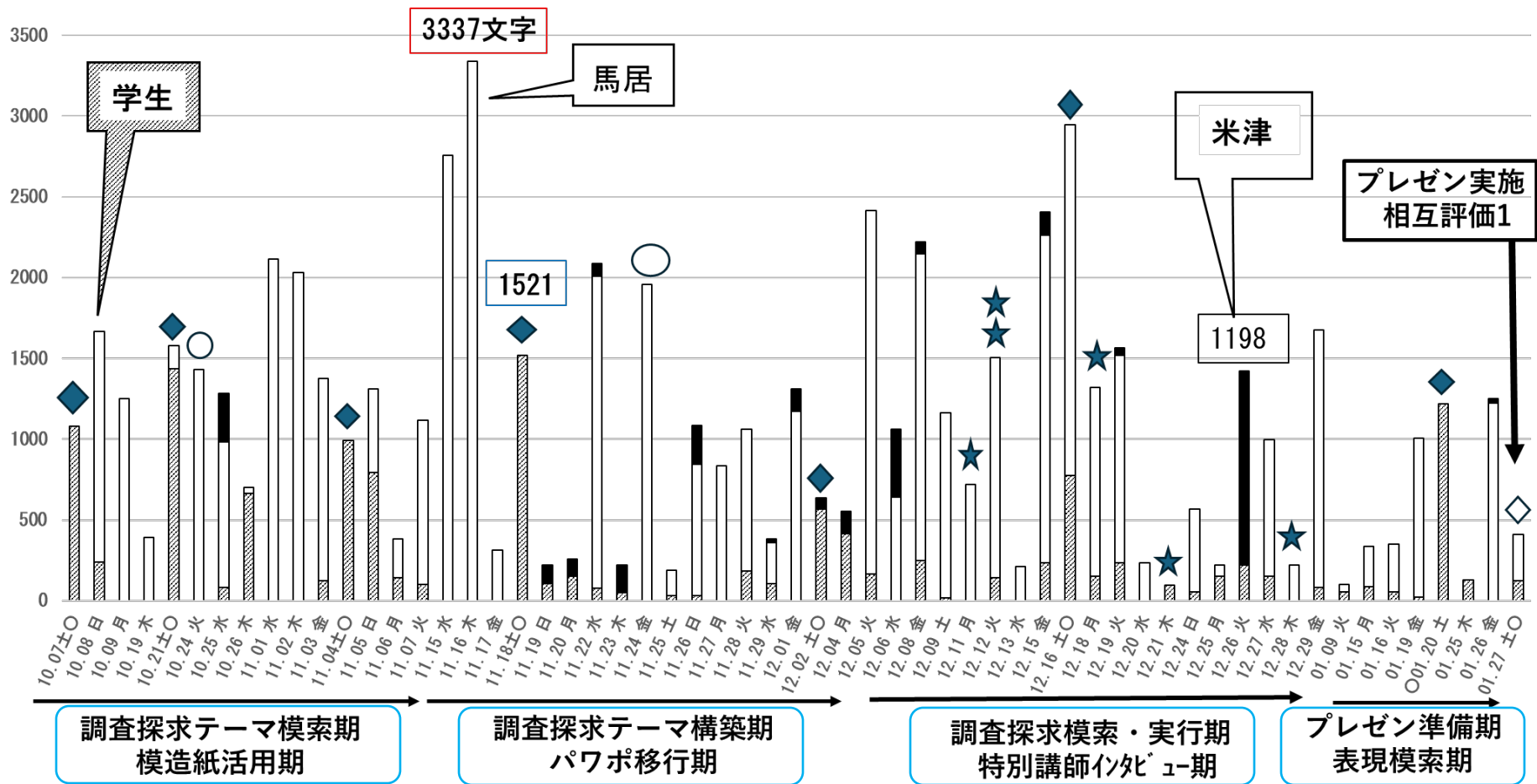
19:53 米津

佐野優子さんのお話はコーヒーのお二人だけでなく私にとっても意味のある内容でした。働く女性、母親の本音を伺うことができ、私自身も新しい発見がありました。
話題となったジェンダー、育児、キャリアはどれを切り口にしても深い学びにつなげることができ、高校生にとっては、目の前にある避けては通れない問題であると言えるでしょう。
つまり、探究活動にふさわしい題材ばかりですので、どれを取り上げても良いのです。
先日のレポートもよくまとめられていたので、お二人で対話して、本時について考えてみてください。
後、馬居先生のお話にあったように法的な押さえは重要ですので、産育休に関する法律はチェックしておいた方がよいと思います。あと少しです。がんばってください。

19:57 米津

佐野優子さんのお話はコーヒーのお二人だけではなく私にとっても意味のある内容でした。働く女性、母親の本音を伺うことができ、私自身も新しい発見がありました。

LINE路歴に読み取る探求活動の軌跡



隔週土曜日午後二コマの活用

- 前半1週間は講義（活動）後の問題深化情報提示・解決助言情報提供
- 後半1週間は講義（活動）準備情報提供・課題深化誘引情報提示

軸4：上記軸3種の過程と成果をPowerPointに描き、チーム間でのプレゼンテーションと相互評価を繰り返し、チーム別調査探求成果の共有化➡個別化➡個人化(相互主観化)へと深化する現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することに挑む試行錯誤。

軸1 “教師・教科書・教室・時間割”の改編と改変

①環境整備

軸2 「現代的課題」 ➡社会事象の座標軸
➡多様・多元・可変
➡調査探求テーマのチーム別構築活動

②引き出し、待つ指導

軸3 “情”と“意”と一体化した“知”の生成の契機
➡一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化
➡経験的に内在化する機会の構築

③学びの価値付け

チーム別PPT

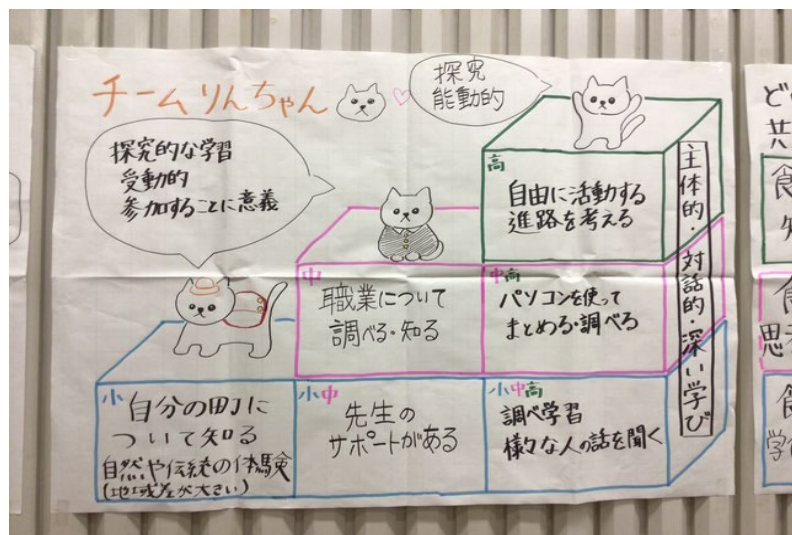
チーム相互評価

LINE履歴

チーム別調査探求成果の共有化➡個別化➡個人化(相互主観化)へと深化する現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することに挑む試行錯誤

“情”と“意”と一体化した“知”の生成の契機

→一人ひとりの主体的、対話的、深い学びの身体化→経験的に内在化する機会の構築



“チームりんちゃん(猫)”のみなさんへ

- ・活動の場（時空の多様・多元・可変）と学びの経緯（方法と内容の多様・多元・可変）、この三種（多様・多元・可変）の相違の多重性に起因する混沌としか表現できない記憶と経験の世界の読み取り（整序化）に真っ正面から挑み、現職教員の研修資料にも活用可能な小中の「学習」から高校の「探求」への推移の多様性、多元性、可変性を精彩かつわかりやすく表現したモデル図の作成。
- ・学校のリアルに根差した学習方法の特性を取り出して、学びの個別性と共有性の尺度を用いて、12年間の学びの時空に描かれる自己形成の軌跡の軸と獲得・蓄積される学習の方法と内容を立体的に把握・具象化（学びの時空の秩序化）する発想力、理解力、表現力の卓越さに感動です。

“チームまいまい”のみんなへ

- ・海の深さと海洋生物の特性に化す比喻を駆使することで、多種多様な活動の重なり（混在する記憶と経験）に隠された価値ある「学習」の成果（学習内容の具象化・細分化・再分類）に名前を与える（個別化・類型化）ことによって、より高度かつ有用な学びの成果を志向する「探求」へと進むモデル図の作成。
- ・経験された活動に潜在する学びの豊かな可能性を引き出す視点の鋭さと表現力の豊かさ。
- ・個々の経験に意味と名前を与えることで居場所を与え、各経験固有の特性の有意性（存在の価値）を認めあうことにより、異質性を貫く融和と背反の混在に根差す困惑の交錯が育む意外性（違和感）を、おおらかに楽しむ（遊ぶ）契機に転換する想像力と創造力に感動です。

“チームりんちゃん”の模造紙に描いたイラストの意味と意図について

N. O(りんちゃん)

小、中、高と上がっていく様子を階段で表現しました。各段階で特徴的な内容と、小中の共通点、中高の共通点、小中高の共通点をブロックごとにまとめました。小学校では地域についての体験学習が主であり、中学校から職業や進路を意識した内容が加わってきました。階段の上には、りんちゃんが成長していく様子を描きました。

「主体的・対話的・深い学び」は小中高で共通のテーマなので右の側面に縦に書きました。また、「探究的」では先生のサポートがあり受動的で、参加することに意義があるのに対し、「探究」では自由な活動が多く、先生からの指示がほとんどないこともあり能動的な学習が必要だと思いました。

補足①A. S(りんちゃん) :

中高の職業関連の違いは、中学校は様々な職業について知ることだと思ったので“職業について調べる・知る”、高校は具体的な進路について考えることだと思ったので“進路を考える”としました。

補足②M. K(りんちゃん) :

小・中学校では、先生から与えられた課題について調べ、学ぶ活動が多い。高校では何について調べ、何を学ぶかを自分で設定することができ、時間や内容についても自由に決めて活動することが特徴だと感じた。だから、探究（高校）では、能動的だと考えた。

N. O(りんちゃん)

まいまいとりんちゃんの違いがあった理由

チームりんちゃんは、メンバー間において、共通した活動内容についてまとめた。よって話し合いの流れは、① 小・中・高での活動について、メンバー間での共通項を取り上げて整理し、② 総合に対する概念を共有し、③ それを図にした。

これまで経験してきた総合の学習について、「先生から課題を与えられる（小・中）、自分で課題を見つける（高校）」ことを共通点として挙げた。それを軸に、話をまとめたため、体系立てられた図になったと考えられる。チームまいまいでは、実際に経験したテーマについて示し、図に表現していた。活動テーマが具体化され、多様な価値観を含んだ内容になったと考えられる。

“チームまいまい”の模造紙に描いたイラストの意味と配列の意図について

Y.K(まいまい)

砂浜から海に出て、海がだんだん深くなることから、学習することから探究へと内容が深まっていくことを表現しました。

クラゲは体の90%が水分であることから、水に馴染んでいく＝社会の一員になるという意味をこめて書きました。

また、クラゲの足にはディベートとプレゼンの具体的な内容を加えました。

蟹の福祉は、手を取り合っている様子を表しています。

また、エイは人権で、こちらも手を取り合っているのですが、毒や棘を持っているので注意。

チョウチンアンコウは、探究を表しており、明かりが探究なのと、無駄無く使用できる点が、探究には無駄が無いことを意味しています。

職業体験は小学校、中学校どちらもやったひとがいたため、間の曖昧な場所に書きました。

ヒトデにした理由は、職業体験は人の手を借りないと成り立たない授業のため、手があって手を借りることができる様子が想像できるから。

亀は、小学校で一番初めに皆が触れている項目だったので端に書いた。地域で学ぶ中には、インタビューで「人」について学ぶことと、地域の「文化」について学ぶことがあったので、三匹描いた。

また、生まれてから海に向かって必死に進んでいくイメージをウミガメに投影した。

歴史は、調べ学習などで関わってくる項目で、小中高全てに関わるので、端に描いた。深海生物であるメンダコは歴史があるイメージだったのでメンダコにした。

チーム別調査探求成果の共有化→個別化→個人化(相互主観化)へと深化する現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することに挑む試行錯誤

社会はこう変化している！

＜昔＞

- ・女の人は家事をする
- ・結婚したら仕事はやめる
- ・女の人はクリスマスケーキ
- ・共働き世帯<片働き世代>

男女の差が埋まってきている

＜今＞

- ・共働き世代<片働き世代>
- ・結婚・出産後も働ける
- ・男の人でも家事をする人が増えた
- ・職業の呼び方の変化
- ・結婚年齢の男児差減

男女の差が埋まってきている

＜未来＞

- ・制服の統一化
- ・文理選択の男女差
- ・教育者の離職率(結婚・育児と理由とする)を減らす
- ・水着の統一(上半身あり)
- ・区別と差別のちがいを学ぶ!!

これからの社会での女性の在り方とは？

和義はこう考える！

- 長く仕事を続けることができる社会が欲しい！
- 性別に左右されなく、昇進したいしお金も稼ぎたい！
- 女の幸せに左右されずに生きたい！自分らしく生きる
- 進学に関する男女差
- 火事の強要
- 結婚しなさいという圧

学校はこう変化している！

＜昔＞

- リボン/ネクタイ
- スカート/ズボン
- ランドセルは女の子 赤
- 男の子 黒
- 出席番号 男女別
- 大学進学率の男女差

＜今＞

- ネクタイ・ズボン自由
- 家庭科・技術 両方受ける
- ～さんで呼ぶ
- 共学の高校が増加
- ランドセルの色が自由に！

＜未来＞

- 制服の統一化
- 文理選択の男女差
- 教育者の離職率(結婚・育児の理由とする)を減らす
- 水着の統一(上半身あり)
- 区別と差別のちがいを学ぶ!!

we love coffee

社会はこう変化している！

＜昔＞

- ・女の人は家事をする
- ・結婚したら仕事はやめる
- ・女の人はクリスマスケーキ
- ・共働き世帯<片働き世代>

男女の差が埋まってきている

＜今＞

- ・共働き世代<片働き世代>
- ・結婚・出産後も働ける
- ・男の人でも家事をする人が増えた
- ・職業の呼び方の変化
- ・結婚年齢の男児差減

男女の差が埋まってきている

＜未来＞

- ・制服の統一化
- ・文理選択の男女差
- ・教育者の離職率(結婚・育児と理由とする)を減らす
- ・水着の統一(上半身あり)
- ・区別と差別のちがいを学ぶ!!

これからの社会での女性の在り方とは？

私たちはこう考える！

- 長く仕事を続けることができる社会が欲しい！
- 性別に左右されなく、昇進したいしお金も稼ぎたい！
- 女の幸せに左右されずに生きたい！自分らしく生きる
- 進学に関する男女差
- 火事の強要
- 結婚しなさいという圧

学校はこう変化している！

＜昔＞

- リボン/ネクタイ
- スカート/ズボン
- ランドセルは女の子 赤
- 男の子 黒
- 出席番号 男女別
- 大学進学率の男女差

＜今＞

- ネクタイ・ズボン自由
- 家庭科・技術 両方受ける
- ～さんで呼ぶ
- 共学の高校が増加
- ランドセルの色が自由に！

＜未来＞

- 制服の統一化
- 文理選択の男女差
- 教育者の離職率(結婚・育児の理由とする)を減らす
- 水着の統一(上半身あり)
- 区別と差別のちがいを学ぶ!!

we love coffee

チーム“coffee”のみなさんへ

“まいまい”と異なり“coffee”は文字表現のみで、思考の方向も明確、考察の選択肢の並びも私の得意な領域でしたので、楽勝と思って作業を開始したのですが・・・。

一行ごと転記する過程で、私の想定を超える多種多様かつ多元的な問いの綴りが並んでいることがわかり、その一つ一つの意味を問いながら、文字の位置を確定する微細な操作に挑まざるを得ませんでした。さらに、配分された綴りの分別を、直線ではなく曲線（PPTでは最も苦手な操作技術）で囲む作業にも挑むことになりました。結局、複雑なイラスト形成操作で悩んだ“まいまい”とは異なり、一番単純な文字（大きさ、長さ、字間）と線（変幻自在な曲線による意味の領域化）の操作で、試行錯誤を繰り返し、最も長時間を費やしました。

私自身の思考との重なりがなければ・・・です。どこまで進むか。期待しています。 22

“チームcoffee”の模造紙に描いたイラスト（文字の意味と配列の意図）について

「N. K(コーヒー)」

自分たちで探求を実際にやってみました。文系よりも理系のほうが女性の社会進出が盛んであると感じるので、女性問題についてより繊細に感じる事ができる私たちが考える意義があると感じて、ジェンダーの問題を取り上げました。探求は個人の思想を取り入れたいと思ったので自分の感じる生きづらさも探求のなかに含みました。」

「N. O(りんちゃん)」

コーヒーへの質問；同性の親が持つ固定概念とは具体的にどんなことですか？」

「Y. K (まいまい)」

チームwe love coffeeへの質問です。この発表は女性目線だと思うのですが、総合という点からは偏っていると思うんです。学級として行う総合として。は、どう落とし込みますか？」

「N. K(コーヒー)」

例えば早く結婚したほうがいいなどの助言だったり、私はこうだったのよという言葉がけのことだと思います。

ジェンダーの問題を今回考えたかったのですが、私達はどちらも女性であるため 男性の意見を考えることができませんでした。実際に探求をクラスで行う時には男女間の差を感じながら模造紙にまとめる過程で個人の中にある偏りを認知することができると思いこのような形にしました。

調査探究活動報告書の相互評価表と来年度受講生へのアドバイス

☆りんちゃん 最終完成版（公開用）相互評価表と来年度の受講生へのアドバイス

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%98%86%E3%82%8A%E3%82%93%E3%81%A1%E3%82%83%E3%82%932023%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%B7%8F%E5%90%88%E7%9A%84%E3%81%AA%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%83%BB%E6%8E%A2%E6%B1%82%E6%95%99%E8%82%B2%E6%B3%95%E6%9C%80%E7%B5%82%E5%AE%8C%E6%88%90%E7%89%88%EF%BC%88%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8%EF%BC%89%E3%81%AE%E7%9B%B8%E4%BA%92%E8%A9%95%E4%BE%A1%E8%A1%A8-1-.pdf>



☆まいまい 最終完成版（公開用）相互評価表と来年度の受講生へのアドバイス

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%98%86%E3%81%BE%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%842023%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%B7%8F%E5%90%88%E7%9A%84%E3%81%AA%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%83%BB%E6%8E%A2%E6%B1%82%E6%95%99%E8%82%B2%E6%B3%95%E6%9C%80%E7%B5%82%E5%AE%8C%E6%88%90%E7%89%88%EF%BC%88%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8%EF%BC%89%E3%81%AE%E7%9B%B8%E4%BA%92%E8%A9%95%E4%BE%A1%E8%A1%A8.pd>



☆coffee 最終完成版（公開用）相互評価表と来年度の受講生へのアドバイス

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2023/12/%E2%98%86%E3%81%BE%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%842023%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%B7%8F%E5%90%88%E7%9A%84%E3%81%AA%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%83%BB%E6%8E%A2%E6%B1%82%E6%95%99%E8%82%B2%E6%B3%95%E6%9C%80%E7%B5%82%E5%AE%8C%E6%88%90%E7%89%88%EF%BC%88%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8%EF%BC%89%E3%81%AE%E7%9B%B8%E4%BA%92%E8%A9%95%E4%BE%A1%E8%A1%A8.pdf>



◆評価対象のグループ名（ こーひー ）（49 以下）（50～59）（60～79）（80～89）（90～100）

	1 (不可)	2 (可)	3 (良)	4 (優)	5 (秀)
発表作品（調査分析）の方法と結果					○
発表作品の構成					○
発表作品の内容					○
発表作品の表現					○
発表作品のわかりやすさ					○

調査探究活動報告書の相互評価表

1 グループ名（りんちゃん）

2. 相互評価記入表

◆評価対象のグループ名（まいまい）（49 以下）（50～59）（60～79）（80～89）（90～100）

	1（不可）	2（可）	3（良）	4（優）	5（秀）
最終完成版（公開用）の調査考察の方法					○
最終完成版（公開用）の構成					○
最終完成版（公開用）の内容					○
最終完成版（公開用）の表現					○
最終完成版（公開用）のわかりやすさ					○

☆評価（よいところを中心に、課題があれば優しく）

33ページでは決定したテーマの意義が明確になっており、この授業を受けてみたいと思った。chatGPTを活用したりAIにイラストを描かせたり、テキストマイニングを行ったりと調査考察方法を工夫しているので見ていて飽きないと感じた。学習指導案では、エゴグラムやマインドマップといった現場で使われている既存の方法を効果的に取り入れている。授業の展開が時代のデジタル化に対応している。授業資料にある「人の夢を実現するためのツール」という響きはとても魅力的だと思う。

◆評価対象のグループ名（コーヒー）（49 以下）（50～59）（60～79）（80～89）（90～100）

	1（不可）	2（可）	3（良）	4（優）	5（秀）
最終完成版（公開用）の調査考察の方法					○
最終完成版（公開用）の構成				○	
最終完成版（公開用）の内容					○
最終完成版（公開用）の表現				○	
最終完成版（公開用）のわかりやすさ				○	

☆評価（よいところを中心に、課題があれば優しく）

特別講義の小タイトルが「〇〇さんに聞いた新しい発見」と工夫されているので読んでみたくなった。特別講義の報告では、はじめに「新しい発見」をまとめてあったため、それについて詳しく知りたいと思い、自然と読み進めることができる構成になっていた。3号被保険者については学生の自分からするとあまりなじみのない視点なので興味深かった。メンズメイクなど時代に合った話題について触れているため読み手を引き付けることができると思う。

◆評価対象のグループ名（りんちゃん）（49 以下）（50～59）（60～79）（80～89）（90～100）

	1（不可）	2（可）	3（良）	4（優）	5（秀）
最終完成版（公開用）の調査考察の方法					○
最終完成版（公開用）の構成					○
最終完成版（公開用）の内容					○
最終完成版（公開用）の表現					○
最終完成版（公開用）のわかりやすさ					○

☆評価（よいところを中心に、課題があれば優しく）

全体的にイラストが多く配色に統一感があってパワーポイントの見栄えがいい。防災という題材は、なかなか当事者意識を持つことができず課題も多いので、この授業を行うことにより防災の重要性を再確認できると思う。また、栄養教諭の立場などについての課題を知ってもらうことができる内容になっている。

来年度受講生へのアドバイス

★来年度の受講生へのアドバイスを

T：理科教諭の免許取得を目指して教職の講義を受講している人は、理科の模擬授業を行うのとは全く違うと覚悟して挑んだ方が良いでしょう。総合の授業は、理科の授業と比べて自由度が非常に高いです。実際に、小学校から高校までの総合の時間で、班員が経験してきた内容も様々でした。また、理科教員として働いている方のお話からも、学校ごとに行っている内容は全く違いました。自由度が高いことは授業を作り上げていく上で難しい点となりますが、外部の様々な専門家の方のお話を聞いたり、グループでの話し合いを活発に行ったりする中で、自分達にしかできない授業を作り上げることができると思います。講義での準備が必要だったり、休みの日に講義があったりと、教員になりたいという強い意志や夢がない人にとっては、なかなかやる気がでない授業かもしれませんが、自身の成長に役立ててください。

★来年度の受講生へのアドバイスを

I：この講義は外部講師の特別講義があったり、スライドや模造紙の製作をしたり、授業時間以外にも様々な課題があります。そのため、グループメンバー同士、リーダー同士で予定を合わせたりする時間のやりくりや、メンバー間のコミュニケーション、タスクの振り分けが大変ですが、お互いに協力し合って頑張ってください。

グループワークでは、話し合えば話し合う程、各メンバーが持つ価値観や自分にはない考えに出会う事ができるので、どんどん話し合ってみてください。

興味のある分野と絡めたテーマを設けると、専門家の御話がこの授業だけでなく様々な事に活かせる実りあるものになるので、テーマ決めがとても重要だと思います。

★来年度の受講生へのアドバイスを

K：この講義は大変ですが、自分のためになる様々な技術が身に付きました。グループワーク力、パワーポイント作成力、また外部講師のお話による多角的な知識。教員志望でなかったため、大変ではありましたが、後になってこの講義での経験が自分の中で大きなものとなっていました。今となれば、就職活動で使えるエピソードもこの講義でいくつか得られたと感じています。

グループワーク力や多角的なものの見方等様々な力を身に付ける良い経験になると思います。

グループメンバーで、何度も何度も話し合い1つの作品を完成させる経験ができるので、やりがいがあります。ぜひ協力しながら頑張ってください！

★来年度の受講生へのアドバイスを

F：本講義は各グループでテーマを決めて、そのテーマにあった外部講師の方のお話を聞くことやテーマにかかわる問題などを深く調べることなど様々な活動があります。その活動を通してスライドや模造紙を使って資料を作成します。その過程はとも大変で途中でやめたくなくなるかもしれませんが、しかしその過程で同じグループのメンバーと協力し合うことで、仲がとても深まると思います。そしてその過程はほかの講義では経験することのできない貴重な経験になると思います。

グループ内でコミュニケーションを取って、様々な資料を完成させることは楽しいと感じる方は多いと思われます。やりがいはいっぱいあります。グループメンバーと協力して頑張ってください。

3. 課題 ≡ 軸4の先へ

上記軸3種の過程と成果をPowerPointに描き、チーム間でのプレゼンテーションと相互評価を繰り返し、チーム別調査探求成果の共有化➡個別化➡個人化(相互主観化)へと深化する現代的課題に挑む方法と課題を内発的に覚知・表現することに挑む試行錯誤。

小中高学習指導要領の「総合的な学習・探求の時間」の目標と内容の記述様式が、7度の改訂によって構築した日本の公教育システムの中核を構成する教科書検定システムの外側に置かれていることを、“教師・教科書・教室・時間割”の転換装置設置過程の映像・資料等で実証的に明示し、現代的課題の恒常化を避けえない日常生活を構成する社会的システムの中核に現在の公立学校システムをおくことの機能的合理性への問いを提起する。

探究課題の多様性、多元性、可変性と同時に学習者個々へのかかわり方➡生活科誕生期に全国の小学校の先生方の実践から学んだ4種の“みる”（見、観、診、看）

- ア) 児童・生徒・学生の今（あるがまま）を可能な限り予断を排して“見る”
- イ) 教師自身の偏差の自覚と学習者一人ひとりの課題の具体性に寄り添って“観る”
- ウ) 課題（問題）解決への処方箋を書くための処方を求めて“診る”
- エ) 処方箋に基づく処置の経過を“看る”ことで、処方箋の適否を判断する（評価の目的）

『現代の教育課題を読み解く』 研究報告No.103 公益財団法人中央教育研究所
<https://chu-ken.jp/pdf/kanko103.pdf>

第5章「総合的な学習・探究の時間」が挑む公教育再構築の課題と可能性 55～56ページ

総合的な学習と探究に関する学習指導要領の記述には、全国共通のサブテキストや資料集を用いての授業のありかたを超える（実質否定？）学びと活動を要望する文章が並ぶ。そのことを象徴するのが、他の教科等では「内容」と記す項目の位置に、本節冒頭に紹介した「各学校において定める目標及び内容」という見出しの項目が置かれていることである。

総合的な学習の時間の目標は、他の教科等のように学習指導要領の項目名「内容」に記述される文章の写しではなく、「各学校における教育目標を踏まえ、総合的な探究の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと」と各学校に委ねられる。さらに、その内容も上記にて考察したように、i 現代的な諸課題（横断的・総合的）、ii 地域や学校の特色、iii 生徒の興味・関心、iv 職業や自己の将来となる、と簡潔明瞭にキーワード化可能かつ多様・多元・可変をゆるやかに組み込む概念に要約できる。

換言すれば、“子ども一人ひとりが、その生きる場に生じる問題に気づき、自分自身の今と未来への問いと重ねながら、解決への道筋を友とともに探し続ける活動”となる。そしてこのワーディングが、静岡県立大学食品栄養科学部3学年10人の皆さんとの活動の前提にあることはご理解いただければ。しかし、同時に、私の静岡大学での35年間に、共に学んでくれた学生のみなさんにとって、最も困難な課題と私が判断する理由もご理解いただけることを願う。

あくまで私見だが、学習指導要領は検定と授業時数配分の制度によって、ナショナルカリキュラムの実践化を日本の公教育システムの中核に維持することを可能にした、と評価する。しかし、総合的な学習と探究での記載内容は、その中核システムである検定教科書システムの外に位置付けざるを得ない。「横断的総合的」という記述に従えば、外側の領域は大幅に他の教科等に配分された時間に広がることも許容される。敗戦後に誕生した学習指導要領は、7度の改訂をへて構築した教育システムを組み替える（改編から改変への）契機を組み込んだ、と私的には評価したい

その意味で、教室と時間割の転換、教員の複数化、教科書にかわるLINEサイト設定、という本章での展開に、他教科等が続く方向に舵をとるべきか。逆に、他の教科等の維持を優先する教育システムへの同化を求めるべきか。

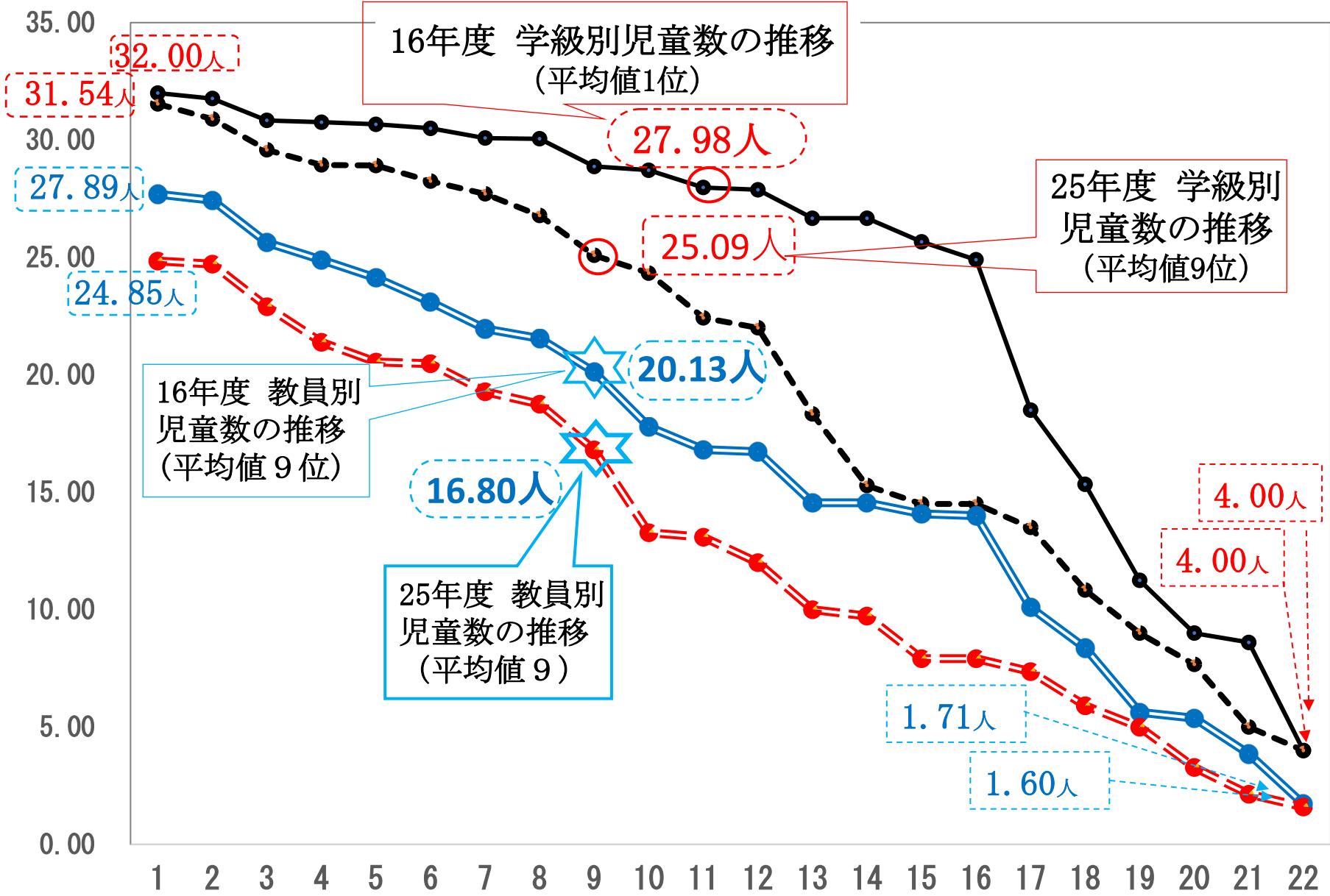
答えは既に出ている、との判断から本稿執筆を構想した。その理由は本稿で紹介した「総合的な学習・探究の時間の指導法」の講義と活動の転換装置の原点は、全て馬居が1990年代前半の生活科誕生期に、全国の先生方に学んだ授業（活動）づくりの具体像（構成要素と実践方法のモデル）だからである。そのモデルが日本の小学校教育を担ってこられた先生方と子どもたちの歩みの軌跡に広く深く根付いていることを、コロナ危機臨時休校期の調査研究において幾度も確認できたからである¹⁷⁾。もし本稿での記述に、そのことを確認できない方がおられるとすれば、まず、90年代生活科誕生期の実践記録の再確認をお願いしたい¹⁸⁾。

第5章「総合的な学習・探究の時間」が挑む公教育再構築の課題と可能性（馬居・米津） 55～56ページ

<https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2024/10/%E7%AC%AC%E7%BC%95%E7%AB%A0%E3%80%8C%E7%B7%8F%E5%90%88%E7%9A%84%E3%81%AA%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%83%BB%E6%8E%A2%E7%A9%B6%E3%81%AE%E6%99%82%E9%96%93%E3%80%8D%E3%81%8C%E6%8C%91%E3%82%80%E5%85%AC%E6%95%99%E8%82%B2%E5%86%8D%E6%A7%8B%E7%AF%89%E3%81%AE%E8%AA%B2%E9%A1%8C%E3%81%A8%E5%8F%AF%E8%83%BD%E6%80%A7.pdf>



2016年度～25年度 富士宮市立小学校21校の
学級別と教員別の児童数の平均値の推移



DEI+Bが問う学習評価の多様、多元、可変の尺度

◇教師、教科書、教室、時間割の固定化◇

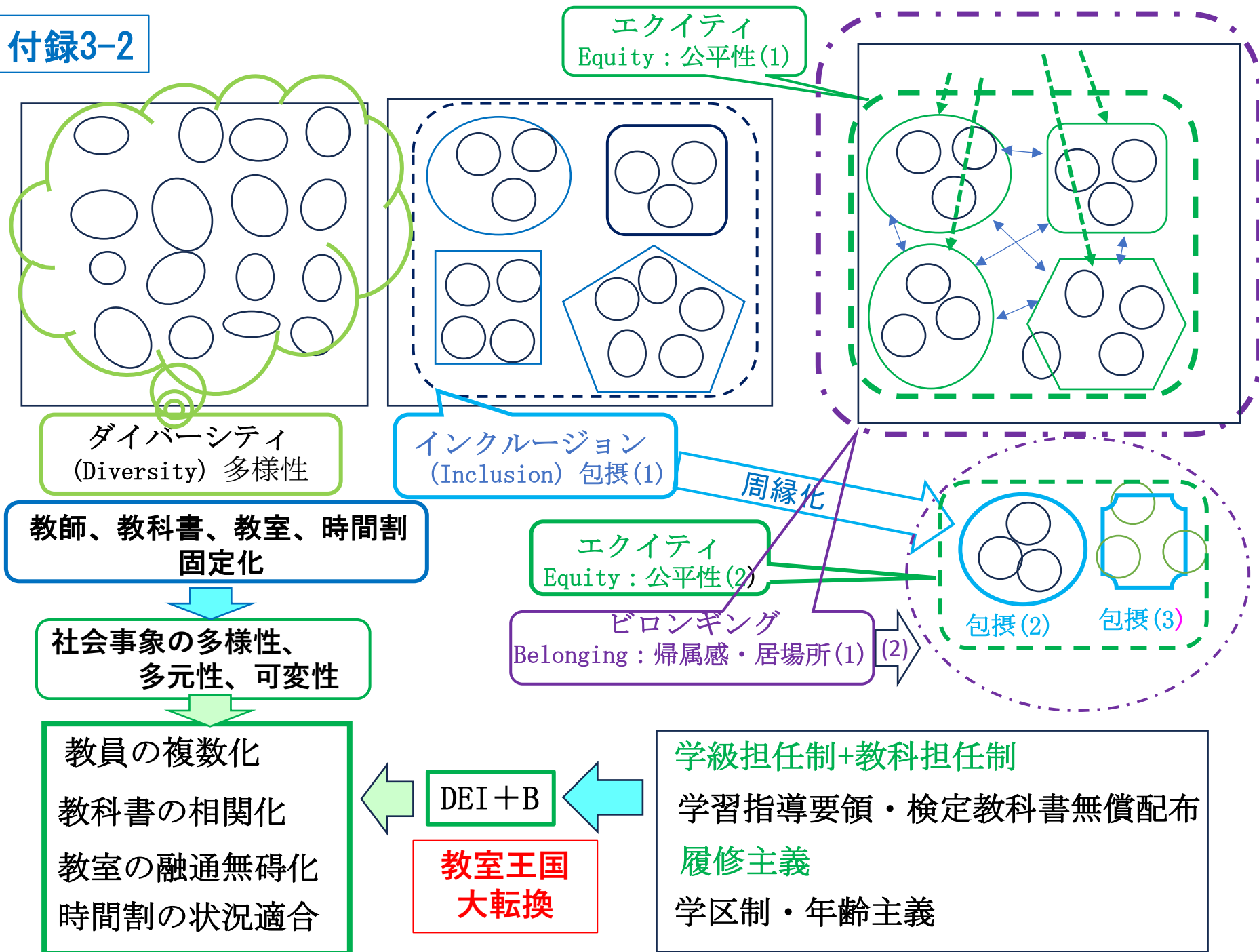
- ①教員一人が全教科等を教える「学級担任制」+「教科担任制」
- ②獲得知識より学習の場の共有を優先する「履修主義」
- ③「居住地≡学区制」と「学年≡年齢主義」による就学条件の固定≡非選択制
- ④「学習指導要領」「検定教科書」「無償配布」による教育課程の統一性

教室王国

ダイバーシティ (Diversity) : 多様性
エクイティ (Equity) : 公平性。
インクルージョン (Inclusion) : 包摂性。
ビロングング (Belonging) : 帰属感・居場所

◇社会事象の多様性、多元性、可変性◇

付録3-2



付録 4

日本の小学校教員を支える教育システムの中核を形成する4種の 公立小学校教育の仕組み（法制度が統制する教育システム）

- ①教員一人が全教科等を教える“学級担任制”
- ②獲得知識より学習の場の共有を優先する“履修主義”
- ③居住地≡“学区制”と学年≡“年齢主義”による就学条件の固定≡非選択制
- ④“学習指導要領”・“検定教科書”・“無償配布”による“教育課程の統一性”

「小学校教員の教育観とこれからの学校教育—デジタル化の流れの中で—」

研究報告No.98 <https://chu-ken.jp/pdf/kanko98.pdf> 中央教育研究所 2022年8月

第5章「1人1台」（PCタブレット≠端末）による公立小学校の脆弱性の顕在化

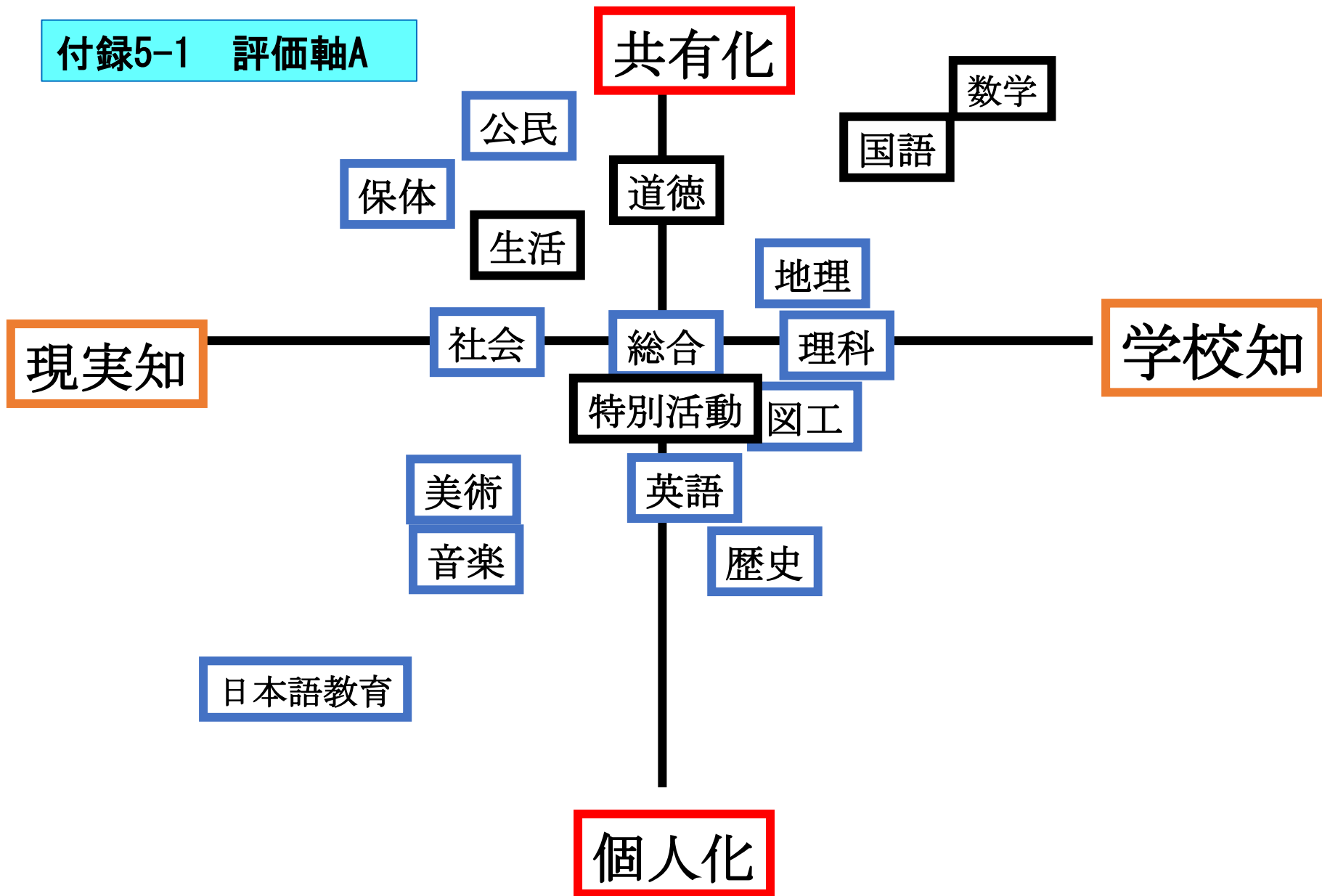
著者：馬居政幸 研究報告No.98 54～67ページ より転記（63～67ページ）

22教社学会発表「1人1台」（PCタブレット≠端末）、公立小学校の優位性と脆弱性

https://www.uer-labo.jp/room/gakkou/gakko_u05/2022/11/14/4245



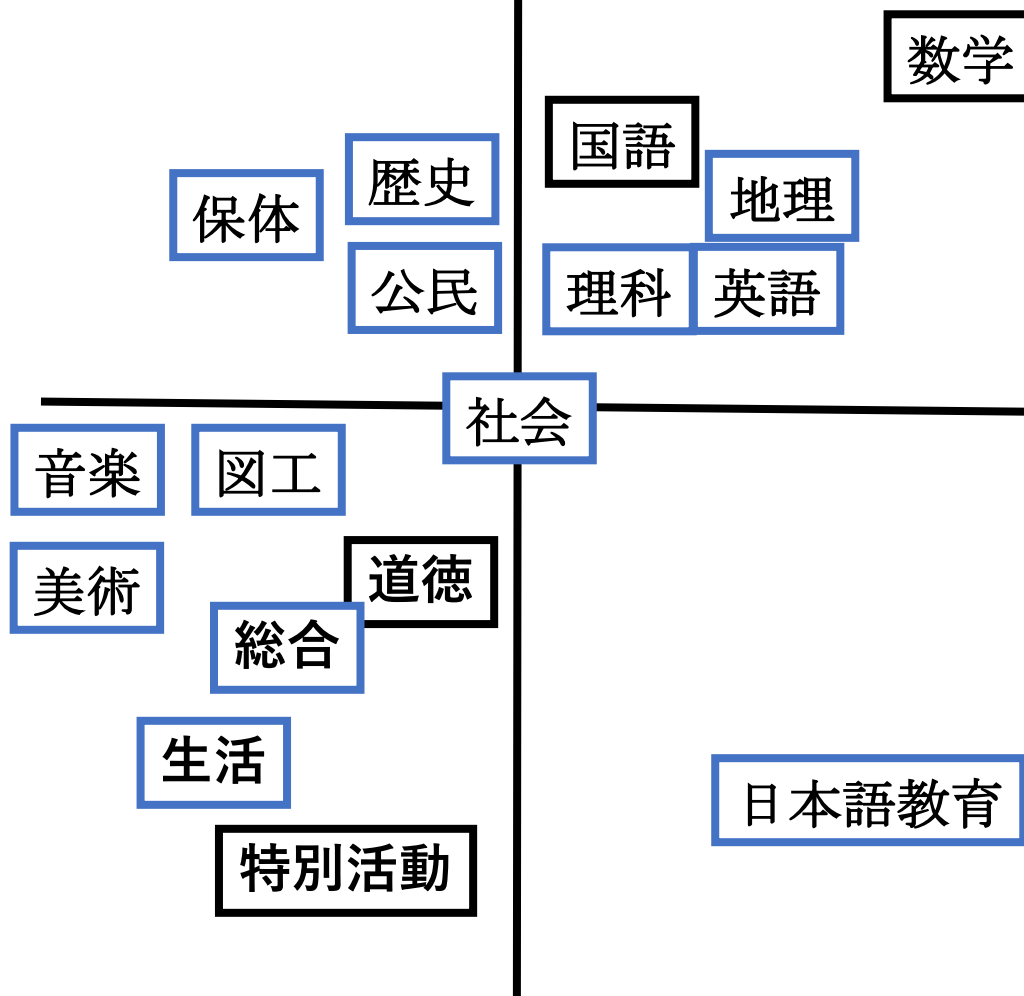
付録5-1 評価軸A



付録5-2 評価軸B

評定(相対評価)優先

到達度
評価困難



到達度
評価可能

個人内(絶対)評価優先

付録6 関連拙稿（UER-Labo：馬居教育調査研究所解説サイト）

◇2023年度静岡県立大学「総合的な学習・探求の時間」教育・指導法

<https://www.uer-labo.jp/room/gakkou/gakkou03/2023/12/10/4747>



◇『現代の教育課題を読み解く』研究報告No.103

公益財団法人中央教育研究所 <https://chu-ken.jp/pdf/kanko103.pdf>

第4章 コロナ危機と1人1台PCが問う日本の公教育の優位性と脆弱性

[https://www.uer-labo.jp/cms/wp-](https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2024/10/%E7%AC%AC%E7%94%E7%AB%A0%E3%80%80%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E5%8D%B1%E6%A9%9F%E3%81%A8%E7%BC%91%E4%BA%BA%E7%BC%91%E5%8F%B0PC%E3%81%8C%E5%95%8F%E3%81%86%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%85%AC%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E5%84%AA%E4%BD%8D%E6%80%A7%E3%81%A8%E8%84%86%E5%BC%B1%E6%80%A7.pdf)

[content/uploads/2024/10/%E7%AC%AC%E7%94%E7%AB%A0%E3%80%80%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E5%8D%B1%E6%A9%9F%E3%81%A8%E7%BC%91%E4%BA%BA%E7%BC%91%E5%8F%B0PC%E3%81%8C%E5%95%8F%E3%81%86%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%85%AC%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E5%84%AA%E4%BD%8D%E6%80%A7%E3%81%A8%E8%84%86%E5%BC%B1%E6%80%A7.pdf](https://www.uer-labo.jp/cms/wp-content/uploads/2024/10/%E7%AC%AC%E7%94%E7%AB%A0%E3%80%80%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E5%8D%B1%E6%A9%9F%E3%81%A8%E7%BC%91%E4%BA%BA%E7%BC%91%E5%8F%B0PC%E3%81%8C%E5%95%8F%E3%81%86%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E5%85%AC%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E5%84%AA%E4%BD%8D%E6%80%A7%E3%81%A8%E8%84%86%E5%BC%B1%E6%80%A7.pdf)



◇「学校教育において外国ルーツの子どもはなぜ周縁化されるのか
－D E I＋Bが問う公教育（公立校）再構築の道筋（その1）－」

<https://www.uer-labo.jp/room/gakkou/gakkou05/2025/06/10/5223>



◇22教社学会発表「1人1台」(PCタブレット≠端末)、
公立小学校の優位性と脆弱性

<https://www.uer-labo.jp/room/gakkou/gakkou05/2022/11/14/4245>

